

輸血・細胞治療部

1 構 成 員

	平成 26 年 3 月 31 日現在	
教授	0 人	
病院教授	1 人	
准教授	0 人	
病院准教授	0 人	
講師（うち病院籍）	0 人	(0 人)
病院講師	0 人	
助教（うち病院籍）	0 人	(0 人)
診療助教	1 人	
特任教員（特任教授、特任准教授、特任助教を含む）	0 人	
医員	0 人	
研修医	0 人	
特任研究員	0 人	
大学院学生（うち他講座から）	0 人	(0 人)
研究生	0 人	
外国人客員研究員	0 人	
技術職員（教務職員を含む）	8 人	
その他（技術補佐員等）	0 人	
合計	10 人	

2 教員の異動状況

竹下 明裕（病院教授 ）（24.4.1～現職）

3 研究業績

数字は小数 2 位まで。

	平成 25 年度	
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	6 編	(2 編)
そのインパクトファクターの合計	18.79	
(2) 論文形式のプロシーディングズ及びレター	0 編	
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(3) 総説数（うち邦文のもの）	11 編	(11 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(4) 著書数（うち邦文のもの）	0 編	(0 編)
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	0 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Takeshita A: Efficacy and resistance of gemtuzumab ozogamicin for acute myeloid leukemia. Int J Hematol. 2013;97(6):703-16. doi: 10.1007/s12185-013-1365-1.
2. 古牧宏啓, 渡邊弘子, 藤原晴美, 山田千亜希, 牧明日加, 芝田大樹, 永井聖也, 石塚恵子, 金子誠, 竹下明裕: 手術室との連携の向上を目的とした画像モニタリングと輸血情報システム. 日本輸血細胞治療学会誌. 2013;59 (3):476-481.
3. 竹下明裕, 渡邊弘子, 万木紀美子, 友田豊, 大友直樹, 内川誠, 紀野修一, 大戸斉: アジアにおける赤血球不規則抗体研究 進捗状況と国内調査結果. 日本輸血細胞治療学会誌, 2014;60
インパクトファクターの小計 [1.681]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. Ono T, Takeshita A, Kishimoto Y, Kiyoi H, Okada M, Yamauchi T, Emi N, Horikawa K, Matsuda M, Shinagawa K, Monma F, Ohtake S, Nakaseko C, Takahashi M, Kimura Y, Iwanaga M, Asou N, Naoe T.: CD56 expression is an unfavorable prognostic factor for acute promyelocytic leukemia with higher initial white blood cell counts. Cancer Sci. 2014;105(1):97-104. doi: 10.1111/cas.12319.
インパクトファクターの小計 [3.479]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. Kihara R, Nagata Y, Kiyoi H, Kato T, Yamamoto E, Suzuki K, Chen F, Asou N, Ohtake S, Miyawaki S, Miyazaki Y, Sakura T, Ozawa Y, Usui N, Kanamori H, Kiguchi T, Imai K, Uike N, Kimura F, Kitamura K, Nakaseko C, Onizuka M, Takeshita A, Ishida F, Suzushima H, Kato Y, Miwa H, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Miyano S, Ogawa S, Naoe T. : Comprehensive analysis of genetic alterations and their prognostic impacts in adult acute myeloid leukemia patients. Leukemia. 2014 Feb 3. doi: 10.1038/leu.2014.55
2. Fujita H, Asou N, Iwanaga M, Hyo R, Nomura S, Kiyoi H, Okada M, Inaguma Y, Matsuda M, Yamauchi T, Ohtake S, Izumi T, Nakaseko C, Ishigatsubo Y, Shinagawa K, Takeshita A, Miyazaki Y, Ohnishi K, Miyawaki S, Naoe T.; Japan Adult Leukemia Study Group.: Role of hematopoietic stem cell transplantation for relapsed acute promyelocytic leukemia: A retrospective analysis of JALSG-APL97. Cancer Sci. 2013;104(10):1339-45. doi: 10.1111/cas.12230.
インパクトファクターの小計 [13.643]

(2-1) 論文形式のプロシーディングズ

(2-2) レター

(3) 総説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 清水大輔, 竹下明裕: 急性骨髄性白血病の予後因子としての CD25 発現. 血液内科 67(4), 502-506, 2013.

2. 竹下明裕, 古牧 宏啓, 竹下香 : 血液症候群(第 2 版)その他の血液疾患を含めて, 白血球(顆粒球)の異常(悪性腫瘍を除く) 好中球の異常 好中球機能異常症 先天性好中球機能異常症 Alder-Reilly anomaly. 日本臨床 別冊 血液症候群 第 2 版 II, 68-70, 2013.
3. 古牧 宏啓, 竹下明裕, 竹下香 : 血液症候群(第 2 版)その他の血液疾患を含めて, 白血球(顆粒球)の異常(悪性腫瘍を除く) 好中球の異常 好中球機能異常症 先天性好中球機能異常症 May-Hegglin anomaly. 日本臨床 別冊血液症候群 第 2 版 II, 64-67, 2013.
4. 古牧 宏啓, 竹下明裕, 竹下香 : 血液症候群(第 2 版)その他の血液疾患を含めて, 白血球(顆粒球)の異常(悪性腫瘍を除く) 好中球の異常 好中球機能異常症 先天性好中球機能異常症 Pelger-Huet anomaly, 日本臨床 別冊 血液症候群 第 2 版 II, 61-63, 2013.
5. 竹下明裕 : 白血病/骨髄異形成症候群 どんな検査をするか インフォームドコンセントのための図説シリーズ 医薬ジャーナル, 18-23, 2013.
6. 竹下明裕 : 急性前骨髄球性白血病. 血液疾患最新の治療, 2014-2016. 南江堂, 125-128, 2014.
7. 竹下明裕: 急性前骨髄球性白血病―初発 ここまできた白血病/MD S 治療 プリンシプル血液疾患の臨床, 中山書店, pp157-164, 2013.
8. 竹下明裕: 急性前骨髄球性白血病―再発 ここまできた白血病/MD S 治療 プリンシプル血液疾患の臨床, 中山書店, 165-170, 2013.

インパクトファクターの小計 [0]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)

1. 深津 有佑, 竹下 明裕, 竹下 香: 血液症候群(第 2 版)その他の血液疾患を含めて, 白血球(顆粒球)の異常(悪性腫瘍を除く) 好中球の異常 好中球機能異常症 先天性好中球機能異常症 Chediak-Steinbrink-Higashi 症候群, 日本臨床 別冊 血液症候群第 2 版 II, 71-73, 2013.
2. 永田 泰之, 竹下 明裕 : 血液症候群(第 2 版)その他の血液疾患を含めて, 白血球(顆粒球)の異常(悪性腫瘍を除く) 類白血病反応 一過性骨髄異常増殖症. 日本臨床 別冊 血液症候群 第 2 版, II : 18-21, 2013.
3. 永田 泰之, 竹下 明裕: 血液症候群(第 2 版)その他の血液疾患を含めて, 白血球(顆粒球)の異常(悪性腫瘍を除く) 類白血病反応, 日本臨床 別冊 血液症候群, 第 2 版 II, 13-17, 2013.

インパクトファクターの小計 [0]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

(4) 著 書

(5) 症例報告

4 特許等の出願状況

	平成 25 年度
特許取得数 (出願中含む)	0 件

5 医学研究費取得状況

(万円未満四捨五入)

	平成 25 年度	
(1) 文部科学省科学研究費	1 件	(120 万円)
(2) 厚生労働科学研究費	2 件	(235 万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0 件	(0 万円)
(4) 財団助成金	0 件	(0 万円)
(5) 受託研究または共同研究	1 件	(50 万円)
(6) 奨学寄附金その他 (民間より)	6 件	(250 万円)

(1) 文部科学省科学研究費

基盤研究 C 「改良 QUAL/FRET 法によるがん生細胞の分離と分子学的特性の網羅的解析法の確立」 H24-H26 120 万円

(2) 厚生労働科学研究費

- ・ 厚生労働科学研究費補助金 (がん臨床研究事業) 全例登録を基盤とした高リスク骨髄異形成症候群に対する標準治療の確立および予後マーカー探索の研究に関する研究 H25-H27 200 万円
- ・ 厚生労働科学研究費補助金 (医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業) 200ml 献血由来の赤血球濃厚液の安全性と有効性の評価及び初回献血を含む学校献血の推進等に関する研究 H25-H27 35 万円

(3) 他政府機関による研究助成

(4) 財団助成金

(5) 受託研究または共同研究

浜松フォトニクス H23-H25

中外製薬 H23-H25

6 新学術研究などの大型プロジェクトの代表, 総括

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0 件	0 件
(2) シンポジウム発表数	1 件	0 件
(3) 学会座長回数	0 件	3 件
(4) 学会開催回数	0 件	2 件
(5) 学会役員等回数	0 件	6 件
(6) 一般演題発表数	4 件	

(1) 国際学会等開催・参加

- 1) 国際学会・会議等の開催
- 2) 国際学会・会議等における基調講演・招待講演
- 3) 国際学会・会議等でのシンポジウム発表
 1. Takeshita A, Ono T, Ohnishi K, Kishimoto Y, Kiyoi H, Okada M, Yamauchi T, Emi N, Fujita H, Horikawa K, Matsuda M, Shinagawa K, Monma F, Ohtake S, Nakaseko C, Takahashi M, Kimura Y, Iwanaga M, Asou N, Miyawaki S, Miyazaki Y, Naoe T. CD56 expression is one of the unfavorable

prognostic factors for acute promyelocytic leukemia patients: Long-term follow-up results of the Japan Adult Leukemia Study Group. Promyelocytic Leukemia Symposium, Rome, September 29 - October 2, 2013; 15, #C19. (http://www.apl2013.com/doc/ABSTRACT_BOOK.pdf)

4) 国際学会・会議等での座長

5) 一般発表

口頭発表

ポスター発表

1. Furumaki H, Yamada C, Shibata H, Nagai S, Ishizuka K, Fujiwara H, Watanabe H, Asahina A, Shimizu D, Takeshita A. :The efficacy of image monitoring of operating rooms in transfusion medicine. 18th Congress of European Hematology Association. Stockholm, Sweden. June 14, 2013. haematologica 98 (s1) : 191 - 192, 2013.
2. Shimizu D, Fujiwara H, Shibata H, Yamada C, Furumaki H, Watanabe H, Ishizuka K, Ono T, Sakaguchi K, Ogata T, Takeshita A. :Difference In Erythrocyte Alloantibodies After Blood Transfusion In Patients With Hematological and Non-Hematological Diseases. 55th Annual Meeting of the American Society of Hematology. New Orleans, USA, December 7-10, 2013, #2404. (<http://bloodjournal.hematologylibrary.org/content/122/21/2404.abstract?sid=3f4111e3-3da1-4be5-9a25-09ee92a8322f>)
3. Ono T, Takeshita A, Kishimoto Y, Kiyoi H, Okada M, Yamauchi T, Emi N, Horikawa K, Matsuda M, Shinagawa K, Monma F, Ohtake S, Nakaseko C, Takahashi M, Kimura Y, Iwanaga M, Asou N, Naoe T; Japan: Adult Leukemia Study Group. Long-Term Outcome Of Acute Promyelocytic Leukemia (APL) With Lower Initial Leukocyte Counts By Using All-*Trans* Retinoic Acid (ATRA) Alone For Remission Induction Therapy: Japan Adult Leukemia Study Group (JALSG) APL97 Study. 55th Annual Meeting of the American Society of Hematology. New Orleans, USA, December 7-10, 2013, #3950. (<http://bloodjournal.hematologylibrary.org/content/122/21/3950.abstract?sid=bd976bdb-d18e-4c99-9917-a0b4e0fe4ff1>)
4. Yamada C: Fibrinogen derivatives improve coagulation profiles of patients with hypofibrinogenemia during the perioperative period regardless of the concentration of fibrinogen products. The 23rd Regional Congress of ISBT. Amsterdam, the Netherlands (RAI Convention Centre). June 3, 2013. Vox Sanguinis 105 (suppl 1):273, 2013

(2) 国内学会の開催・参加

1) 主催した学会名

1. 竹下明裕 第 62 回日本輸血・細胞治療学会東海支部 例会
2. 竹下明裕 第 7 回日本臨床腫瘍学会東海地区がん薬物療法医専門医部会

2) 学会における特別講演・招待講演

3) シンポジウム発表

4) 座長をした学会名

第 75 回 日本血液学会

第 60 回 日本検査医学会

第 61 回 日本輸血細胞治療学会

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

1. 日本血液学会（代議員、雑誌編集委員）
2. 日本造血細胞移植学会（代議員）
3. 日本臨床検査医学会（評議員）
4. 日本内科学会東海支部（評議員）
5. 日本輸血細胞治療学会（評議員、効果安全性委員会委員、国際共同研究委員、輸血認定看護師試験委員、東海地区理事、I&A 視察委員）
6. 日本成人白血病グループ（JALSG、幹事、急性前骨髄球性白血病プロトコール委員長）

8 学術雑誌の編集への貢献

	国 内	外 国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	1 件	1 件

(1) 国内の英文雑誌等の編集

Int J Hematol (Editorial board、PubMed/Medline 登録有、IF 有)

(2) 外国の学術雑誌の編集

ISRN Hematology (Editorial board、PubMed/Medline 登録有、IF 有)

(3) 国内外の英文雑誌のレフリー

1. Int J Hematol 11 回（日本）
2. Leukemia 1 回（米国）
3. Hematology J 3 回（英国）
4. 日本輸血細胞治療学会誌 2 回（日本）
5. 臨床血液 1 回（日本）
6. ISRN Hematology 1 回（米国）

9 共同研究の実施状況

	平成 25 年度
(1) 国際共同研究	1 件
(2) 国内共同研究	2 件
(3) 学内共同研究	0 件

(1) 国際共同研究

1. Alloimmunity to Antigen Diversity in Asian Populations（アジアにおけるアロ免疫に関する共同研究）、台湾 韓国 インド マレーシア シンガポール タイ、2008 年～継続、資料の交換を Web を介して行っている。（主任：竹下明裕）

(2) 国内共同研究

1. 竹下明裕 急性前骨髄球性白血病に対する亜ヒ酸、GO を用いた寛解後治療 第Ⅱ相臨床試験 JALSG APL212 (日本成人白血病研究グループ) (主任：竹下明裕)
2. 竹下明裕 65 歳以上の急性前骨髄球性白血病に対する ATO による地固め療法 第Ⅱ相臨床試験 JALSG APL212-G (日本成人白血病研究グループ) (主任：竹下明裕)

(3) 学内共同研究

10 産学共同研究

	平成 25 年度
産学共同研究	2 件

11 受 賞

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 赤血球不規則抗体に関するアジア共同研究

赤血球不規則抗体は輸血や母子間免疫が関係する。これまで、輸血に関しては政治や経済力、測定技術の差異もあり、国際間の共同研究は行われてこなかった。2007 年度より、アジア地区の共同研究として本研究をスタートした。これまでに 100 万例超の患者登録があり、継続研究中有る。これまでの経過は日本輸血細胞治療学会誌 2014; 60(3)総説に掲載される (竹下明裕)

2. 急性前骨髄球性白血病の国内共同前方向研究

急性前骨髄急性白血病(APL)は分子標的療法が最も進んだ白血病である。All-trans retinoic acid (ATRA)、arsenic trioxide (ATO)、gemtuzumab ozogamicin (GO)、Am80 の 4 つの分子標的剤を使用し、従来の化学療法の有害事象と予後の改善を狙った。16 才以上 65 才未満の APL212 と 65 才以上の分子標的治療のみからなる APL212G を研究主任者として行い、現在、登録が進んでいる。

(竹下明裕)

3. 希釈性凝固障害に対するクリオプレシピターとフィブリノーゲン製剤の有用性

大量出血に対する輸血後には希釈性凝固障害が引き起こされる。この際、凝固因子特にフィブリノーゲン製剤の有効性がある。本院では学内 IRB を取得後、「クリオプレシピター」と「フィブリノーゲン製剤」を希釈性凝固障害の症例に対して使用し、きわめて有用な結果を得ている。この結果を第 61 回輸血細胞治療学会総会と 2013 年国際輸血学会 (ISBT, Amsterdam) で発表した。さらに症例を重ね、検討中である。(竹下明裕)

4. 高校生における献血意識調査

若年者、特に高校生への献血に対する広報や教育の方向性を検討し、高校生の献血に対する意識調査を行うことは今後の献血事業を考えていく上で重要である。本調査により、若年者の献血離れの原因を推測し、その対策を立てる上で一助としようとした。調査は連結不可能の疫学調査として行い、調査対象8,456人のうち7,927人 (94%) より回答を得た。男性47%、女性は53%で、献血を経験した高校生は656人 (8%) で、未経験者は88%で、献血者を抽出した調査とは質の異なるものとなった。高校生からの協力は予想を上回る高率で、高校側の受け入れも多くは好意的であった。

しかし、高校生の献血に関する知識や関心は、十分とは言えず、教育と普及活動にはさらに工夫が必要と思われる。（竹下明裕）

13 この期間中の特筆すべき業績，新技術の開発

14 研究の独創性，国際性，継続性，応用性

1. 上記 1-4 に記載した研究はいずれも国際的な研究であり、継続して研究されている。

15 新聞，雑誌等による報道

1. 女性と貧血 静岡新聞 びぶれ 6 月 15 日